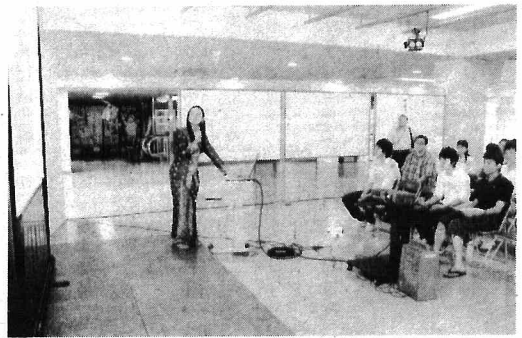


6人が母国の歴史や生活を紹介

留学生ふるさと展交流会

徳山高専



発表するハサナさん

マレーシアの留学生で機械電気工学科四年のハサナさんは上手な日本語で母国の食事や家について話したあと「トゥリマカシ(ありがとう)」「サマサマ(どういたしまして)」などのあいさつも紹介し「いいエンジニアになってマレーシアに日本の技術を伝えたい」と夢を話していた。

徳山高専(平野千博校長)の留学生の母国を紹介する「留学生ふるさと展」の交流会が十一日、徳山駅ビルの周南市民交流センターで開かれ、マレーシア、モンゴル、ベトナム、セネガルの六人が歴史や生活ぶりを発表し、五十人が参加した。同高専ではこれまで二十二年間で十八カ国の六十五人を受け入れてきた。同展は六月二十六日から四カ国のパネルを展示し、この日が最終日。